

実技演習が不可欠な大学授業の オンライン実施の工夫と ICT活用の可能性の取組み

大学教職授業での実践と学生アンケートより

2020年度春学期
教職課程「教育方法・技術論C」の実践

早稲田大学 教育・総合科学学術院 三尾忠男



「教室」授業でのアクティブ・ラーニングの**効果の確認**



毎回の授業アンケートで、工夫の
効果を確認。

2012年前期「教育方法研究」3
つのクラスで比較

「総合的な満足度」の印象評価

※クラスAの第13回と第14回
のデータは、授業内容で合わせ
るため、入れ替えている。

教職課程「教育方法・技術論C」の基本情報

本学での基本情報

- 設置課程 教職課程（資格関連）
- クラス数 10クラス
- 担当者 専任2名、非常勤講師4名

Cクラス 2020年春学期

- 履修者数 109名
- 授業者は、Moodleを短期の使用経験有

本授業の個別事情

- 教育実習の前提科目の1つ
- 三尾は、春・秋学期に1クラスずつ担当
- 非常勤講師1名とピア・レビュー等の協調運用（FDの一環）
- 毎回の授業アンケートの運用
- 効果を実証済の授業中のグループワーク

オンラインでのグループ活動 事例 3つ Zoom／ブレイクアウトルーム

(1) パズルの伝言ゲーム

(2) グループワーク（討論等）での工夫

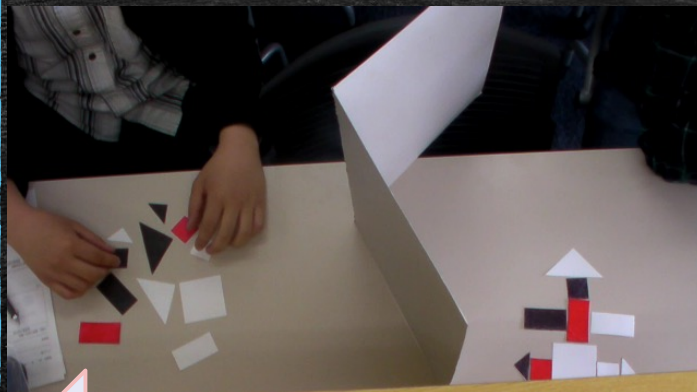
- 画面共有のホワイトボードの活用

(3) 一人Zoomの動画でのセルフ模擬授業

Zoom／ブレイクアウトルーム

(1) パズルの伝言ゲーム

教室での実施風景



言葉だけで、図形の配置を伝える!

2020春学期

・4人（本来3人）

発信者、受信者2、進行
を順番に体験していく

・通信環境等に配慮して、
作業課題を減らして実施。

・結果：好評

オンラインでのグループ活動 事例 3つ

Zoom／ブレイクアウトルーム

(1) パズルの伝言ゲーム

結果

・総じてうまく実施でき、期待する効果も得られた。

(2) グループでの伝言ゲーム（言葉だけでの伝達の困難さ、相手の反応があることの長短所の実感）

・作業手順等の徹底がオン・ラインでは教室対面に比して、困難だった。

(3) 一人Zoomの動画でのセルフ模擬授業

オンラインでのグループ活動 事例 3つ Zoom／ブレイクアウトルーム

(1) パズルの伝言ゲーム

(2) グループワーク(討論等)での工夫

➤ 画面共有のホワイトボードの活用

(3) 一人Zoomの動画でのセルフ模擬授業



グループ活動の効果を阻む要因

- ① グループ活動の方法の未熟さ
- ② 不適切なグループサイズ
- ③ ただ乗りする学習者がいる
- ④ 不公平・不公正を知って、モチベーションを失う
- ⑤ 批判的思考の欠如(表面的で無難な議論)
- ⑥ 思考・議論が浅い。
- ⑦ 多様性の欠乏(似たタイプの学生のみで構成)



Zoom／ブレイクアウトルーム

(2) グループワーク(討論等)での工夫 画面共有のホワイトボードの活用 方法

・1ルーム5～6名

- ①書記が画面共有のホワイトボードでメモ
- ②書記が画像保存し、ルーム内チャットで添付ファイルで配信
- ③各自受信、保存
- ④授業後、各自がその画像を課題提出

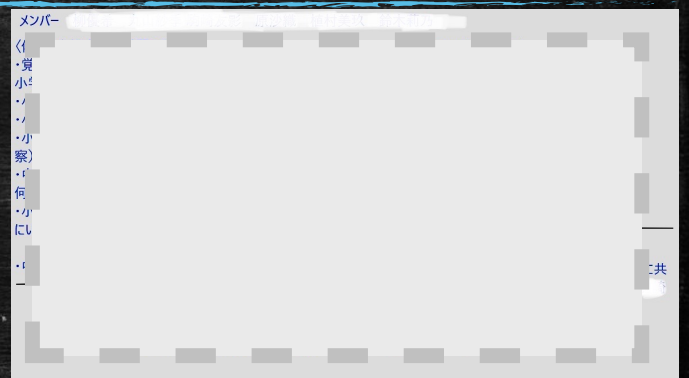
結果：良好。ながら参加を減らす効果

課題：Zoom操作の習得／OS特性(手順ができないケースあり)

Zoom／ブレイクアウトルーム

(2) グループワーク(討論等)での工夫 画面共有のホワイトボードの活用

画像保存機能での提出例



スクショでの画像提出例

オンラインでのグループ活動 事例 3つ

Zoom／ブレイクアウトルーム

(1) パズルの伝言ゲーム

(2) グループワーク(討論等)での工夫

➤ 画面共有のホワイトボードの活用

結果 良好。ながら参加を減らす効果

課題:

- ①Zoom操作の習得／OS特性(手順ができないケースあり)
- ②ルーム巡回の効率化
- ③クラス全体での結果の共有が大変

オンラインでのグループ活動 事例 3つ

Zoom／ブレイクアウトルーム

(1) パズルの伝言ゲーム

(2) グループワーク(討論等)での工夫

➤ 画面共有のホワイトボードの活用

(3) 一人Zoomの動画でのセルフ模擬授業

(3) 一人Zoomの動画でのセルフ模擬授業

最終課題

第14回、第15回のグループワークで、模擬授業(10~15分)を実施。

その結果を受けて、セルフ模擬授業動画を一人Zoomで収録。

動画提出

手順

- ① 授業を立案し、授業計画書とハプーポイントのスライドなど準備する。
- ② 授業中にグループ活動で模擬授業実施。コメントをもらう。
- ③ コメントを参照にして、授業計画書、模擬授業の提示スライド等を修正。
- ④ セルフ模擬授業を一人Zoomで収録。
- ⑤ 動画mp4形式と、他資料をMoodleへ提出。
- ⑥ この一連の流れ(課題としての体験)についての感想・意見をMoodleの指定箇所へ投稿

(3) 一人Zoomの動画でのセルフ模擬授業 の試行

自身の端末でZoomで動画を作り、提出!

テーマ「教師として生徒一人一台のタブレット端末の配布と授業での活用で一番、注意したいこと」を、

パワーポイントでスライド1枚)

をもちいて、1、2分で語る動画をここに提出する。

準備 Zoomでの動画レコーディングの保存先を確認しておく
プレゼンの資料(パワポ?)の準備

方法 提示資料の準備(アプリの起動)
Zoomの一人ミーティング(他の人は入っていない)起動
Zoomのレコーディングを起動
顔出しでの解説
Zoomの画面共有でプレゼン
Zoomのレコーディングを停止(終了)
動画ファイルのサイズ確認(最大50Mbまで)
動画ファイルのMoodleへの提出

学生の端末、通信状況ならびにWasedaMoodleの動画受信状況の確認のために、試行。

右の課題を学期中期に実施。

一部のOS以外は、問題無し。

(iOSでは、OS独自の画面収録機能での録画動画。ただし、ファイルサイズが大きいという新しい課題)

オンラインでのグループ活動 事例 3つ

Zoom／ブレイクアウトルーム

(1) パズルの伝言ゲーム

結果

- ①予想以上に学生は、メディア操作スキル適応あり!
- ②予想以上に、教材作成技能あり!

(2) グループワーク(討論等)での工夫

課題:

- ①採点が大変です!(10分×100名=1000分)

➤ 画面共有

- ②ルーム巡回の効率化

将来性

- ③クラス全体での動画共有の可能性はある!

(3) 一人Zoomの動画でのセルフ模擬授業

オンラインでのグループ活動 事例 3つ

Zoom／ブレイクアウトルーム

(1) パズルの伝言ゲーム

結果:総じてうまく実施でき、期待する効果も得られた。

課題:作業手順等の徹底がオン・ラインでは教室対面に比して、困難だった。

(2) グループワークでの工夫 (画面共有のホワイトボードの活用)

結果:良好。ながら参加を減らす効果

課題:①Zoom操作の習得／OS特性(手順ができないケースあり)／ ②ルーム巡回の効率化

(3) 一人Zoomの動画でのセルフ模擬授業

結果:予想以上に学生は、メディア操作スキル適応、教材作成技能
課題:採点が大変です!(10分×100名=1000分)

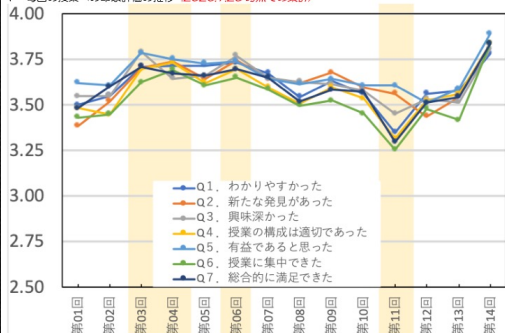
将来性:クラス全体での動画共有の可能性はある!

学生による授業への印象調査の結果

2020年度 教職「教育方法・技術論」クラス C 授業評価結果のフィードバック

授業者 三尾忠男

I 毎回の授業への印象評価の推移 (2020.7.29時点での集計)



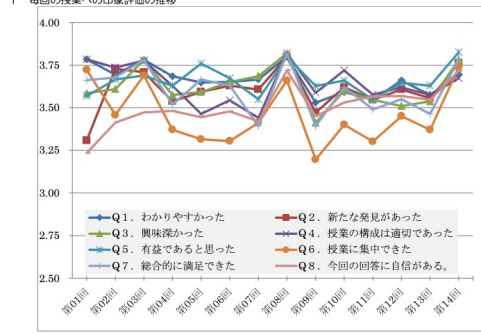
II 総合評価 (2020.7.29時点での集計)

	2020 春期	2019 秋期	2019 春期	2018 秋期	2018 春期	2017 秋期	2017 春期	2016 秋期	2016 春期	2015 秋期	2015 春期	2014 秋期	2014 春期	2013 秋期	2013 春期
自分はこの授業に熱心に取り組んだ	4.11	3.72	3.72	4.28	3.89	4.10	3.51	3.98	3.95	3.69	3.59	3.61	3.44		
シラバスの書き方が適切であった	3.97	4.05	4.05	4.07	3.92	4.08	3.89	4.05	4.19	3.83	3.95	3.59	3.79		
内容がシラバスに沿っていた	3.95	4.37	4.37	4.00	3.98	4.17	3.85	4.12	4.24	3.93	4.14	3.77	3.84		
内容が分かりやすく整理されていた	4.25	4.40	4.40	4.31	3.99	4.37	3.94	4.31	4.38	4.10	4.18	3.89	3.90		
教材・資料等の利用が効果的だった	4.22	4.30	4.30	4.52	4.12	4.58	3.89	4.50	4.55	4.21	4.38	4.11	4.19		
プレゼンテーションの仕方が効果的だった	4.17	4.14	4.14	4.34	4.00	4.43	3.98	4.47	4.40	4.16	4.13	3.84	3.83		
課題が適切に出されていた	4.19	4.37	4.37	4.31	4.09	4.41	3.94	4.36	4.15	4.17	3.90	3.67	3.57		
クラス規模、教室の施設・設備は適切だった	3.93	3.93	3.93	3.81	4.20	3.53	4.04	4.11	3.96	4.05	3.59	3.93			
教員が熱心だった	4.63	4.74	4.74	4.83	4.49	4.78	4.53	4.75	4.71	4.54	4.56	4.52	4.52		
教員の説明が分かりやすかった	4.30	4.37	4.37	4.45	4.24	4.49	3.98	4.47	4.42	4.27	4.16	4.00	3.97		
質問への対応が適切だった	4.52	4.09	4.09	4.17	3.93	4.15	4.11	4.13	4.38	3.94	3.61	3.70	3.50		
学生の積極性が促されていた	4.25	4.09	4.09	4.00	3.98	4.39	3.81	4.07	4.17	3.85	3.55	3.36	3.25		
授業の進め方は自分に合っていた	4.13	3.93	3.93	4.10	4.02	4.24	3.64	4.02	4.13	3.85	3.82	3.55	3.64		
この分野の知識が身についた	4.21	4.40	4.40	4.62	4.16	4.81	3.98	4.20	4.31	4.09	3.96	3.66	3.74		
この分野に関する判断力が働いた	4.21	4.16	4.16	4.10	3.98	4.24	3.74	4.14	4.04	3.85	3.77	3.58	3.54		
この分野への学習意欲が湧いた	4.16	3.98	3.98	4.28	4.02	4.34	3.57	4.28	4.17	3.89	3.72	3.45	3.57		
自分にとって重要な授業だった	4.48	4.16	4.16	4.34	4.12	4.39	3.79	4.39	4.28	4.06	4.03	3.70	3.81		
総合的に良い授業だった	4.38	4.44	4.44	4.62	4.29	4.56	4.06	4.51	4.55	4.39	4.23	4.00	4.05		
この調査は、記名でもかまわない	3.06	3.79	3.79	3.79	3.34	3.69	3.38	3.68	3.64	3.96	3.48	3.05	3.50		

2019年度 教職「教育方法・技術論」クラス C 授業評価結果のフィードバック

授業者 三尾忠男

I 毎回の授業への印象評価の推移



II 総合評価

	2019 春期	2018 秋期	2018 春期	2017 秋期	2016 秋期	2016 春期	2015 秋期	2015 春期	2014 秋期	2014 春期	2013 秋期	2013 春期
自分はこの授業に熱心に取り組んだ	3.72	4.28	3.89	4.10	3.51	3.98	3.95	3.69	3.59	3.61	3.44	
シラバスの書き方が適切であった	4.05	4.07	3.92	4.08	3.89	4.05	4.19	3.83	3.95	3.59	3.79	
内容がシラバスに沿っていた	4.37	4.00	3.98	4.17	3.85	4.12	4.24	3.93	4.14	3.77	3.84	
内容が分かりやすく整理されていた	4.40	4.31	4.09	4.37	3.94	4.31	4.38	4.10	4.18	3.89	3.90	
教材・資料等の利用が効果的だった	4.30	4.52	4.12	4.58	3.99	4.54	4.55	4.21	4.30	4.11	4.19	
プレゼンテーションの仕方が効果的だった	4.14	4.34	4.00	4.43	3.68	4.45	4.40	4.16	4.13	3.84	3.83	
課題が適切に出されていた	4.37	4.31	4.09	4.41	3.94	4.36	4.15	4.17	3.90	3.67	3.57	
クラス規模、教室の施設・設備は適切だった	3.93	3.83	3.81	4.20	3.53	4.04	4.11	3.96	4.05	3.59	3.93	
教員が熱心だった	4.74	4.83	4.49	4.78	4.53	4.75	4.71	4.54	4.56	4.52	4.52	
教員の説明が分かりやすかった	4.37	4.45	4.24	4.49	3.98	4.47	4.42	4.27	4.16	4.00	3.97	
質問への対応が適切だった	4.09	4.17	3.93	4.15	4.11	4.13	4.38	3.94	3.61	3.70	3.50	
学生の積極性が促されていた	4.09	4.00	3.98	4.39	3.81	4.07	4.17	3.85	3.55	3.36	3.25	
授業の進め方は自分に合っていた	3.93	4.10	4.02	4.24	3.64	4.02	4.15	3.85	3.82	3.55	3.64	
この分野の知識が身についた	4.40	4.62	4.16	4.41	3.98	4.24	4.31	4.09	3.96	3.66	3.74	
この分野に関する判断力が働いた	4.16	4.10	3.98	4.24	3.74	4.14	4.04	3.85	3.77	3.58	3.54	
この分野への学習意欲が湧いた	3.98	4.28	4.02	4.34	3.57	4.28	4.17	3.89	3.72	3.45	3.57	
自分にとって重要な授業だった	4.16	4.34	4.12	4.39	3.79	4.33	4.28	4.06	4.03	3.70	3.81	
総合的に良い授業だった	4.44	4.62	4.29	4.56	4.06	4.51	4.55	4.39	4.23	4.00	4.05	
この調査は、記名でもかまわない	3.79	3.79	3.34	3.68	3.38	3.68	3.64	3.96	3.48	3.05	3.50	

秋学期の実践から、新しい課題が発生し、見えてきました

- 学生の視聴環境の多様さが増した！
 - キャンパスでの対面授業、課外活動（制限付き）実施となったため、学生の行動範囲が広がる。その結果、視聴端末がPCからスマホ、視聴環境が自宅からオープンスペースになった。
- 学生がオンライン（リモート、オンデマンド）に慣れ過ぎた。
- 同空間での学び合い（教室で隣接しているクラスメイトの様子を感じる/友達に履修態度を注意してもらう）が無いことが、当該科目固有の履修態度・方法の調整が困難。

ハイフレックス+ハイブリッドの統合型 2021年の実践

1コマを2/3、1/3に分割。

- ・リアルタイム（対面とリモート） 2/3
- ・オンデマンドコンテンツor作業 1/3

ハイブリッド

ハイフレックス

両方の利点を活用してみる。

→効果は、学期末の授業評価調査を待つ

